<table>
<tr><td rowspan="2">科目区分</td><td rowspan="2">専門分野</td><td>科目名</td><td>日常生活援助技術Ⅲ（食事・排泄）</td><td>対象学生</td><td>第１学年</td></tr>
<tr><td>単位数（時間数）</td><td>１単位（30 時間）</td><td>学　　期</td><td>第２学期</td></tr>
<tr><td>担当講師</td><td colspan="3">下田代　智恵</td><td>実務経験</td><td>有</td></tr>
<tr><td>科目目標</td><td colspan="5">食事と排泄の日常生活援助技術を習得する。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="5">第１回　食事・栄養の意義と基礎知識　（講義）
１．食事･栄養の意義
２．栄養状態および食欲･摂食能力のアセスメント
３．食事援助の基本
４．栄養や食事における看護師の役割
第２回　（講義）
１．健康障害と食生活
２．食事摂取の介助
１)目的･適応　２)実施方法
３)実施前のアセスメントと介助方法の決定
４)援助の実際と実施後の評価
第３回　経口摂取できる患者の食事介助の実際（演習）
１．環境調整
２．食器の位置や補助具･自助具の工夫
３．食事姿勢の調整　４．食事動作の工夫
第４回　排泄の意義と基礎知識　（講義）
１．排泄の意義
２．排泄のメカニズム(排尿･排便)
３．排泄に影響する因子
４．排泄のアセスメント
第 5・6 回（講義）
自然排尿および自然排尿を促す援助
１．排泄に影響を及ぼす因子
２．排泄障害がある患者の援助
３．排尿障害のある患者の援助
１)排尿障害とは　２)排尿障害の種類
３)具体的な援助
４．排便困難のある患者の援助
１)便秘　２)下痢
（１)便秘の種類　（２)具体的な援助
第７回　排泄の援助方法（講義）
１．トイレにおける排泄援助
２．ポータプルトイレでの排泄援助
３．床上排泄援助　1)便器・尿器のあて方
４．おむつによる排泄援助
第８回　床上での排泄援助の実際（演習）
１．尿器・便器のあて方
２．トイレ歩行・ポータブルトイレでの排泄
３．おむつ使用による排泄援助
第 9・10 回 排尿障害時の援助（講義）
１．導尿
１)一時的導尿
(1)目的･適応(2)具体的な方法(3)禁忌
２)持続的導尿
(1)目的･適応(2)具体的な方法(3)禁忌
(4)カテーテル管理
第 11・12 回 導尿の援助の実際（演習）
１．一時的導尿の援助　２．持続的導尿の援助
第 13 回　排便障害時の援助（講義）
１．浣腸 1）目的･適応 2）種類と作用(グリセリン浣腸など) 3）目的･根拠　4）禁忌
２．摘便 1）目的・適応 2）方法・根拠 3）禁忌
第 14 回　排便障害時の援助の実際(演習)
１．浣腸の方法
１）浣腸液の温め方　２）浣腸液の注入方法
２．摘便の方法
第 15 回　　終了試験</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="5">筆記試験（80%）、演習への参加状況（30%）で総合的に評価、技術チェック有</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="5">系統看護学講座　基礎看護学〔3〕　基礎看護技術Ⅱ　医学書院
看護技術プラクティス第４版　学研</td></tr>
<tr><td>講師からのメッセージ</td><td colspan="5">形態と機能、疾病･治療論、栄養学、既習の看護技術の学習内容を想定しながら授業を進める。看護技術は、DVD 視聴によりイメージ化を図る。学生間による患者模擬体験を通して、援助を受ける患者の心理を知り、援助に活かすことができるようにする。国家試験出題基準を確認し学習すること。</td></tr>
</table>